

講義名	日本語総合A（1年生のみ）			授業形態	
担当教員	小野 勝	開講期・曜日・時限	前期 木曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生

主題と概要
 大学生活を送るための基礎的な日本語能力を身につける。この授業では、日本語の文法項目について、基本的なものから日本語能力試験上級レベルのものに至るまで、幅広く意味や使い方を学ぶ。また、文法知識を学ぶだけではなく、実際の日本語でのコミュニケーションや作文でどのように使われるかを考え、様々な課題に取り組むことを通して、実際の生活の場面で応用できるようになることを目指す。

到達目標
 授業で扱った文法項目の理解だけでなく、運用能力を身につけ、日常生活でのコミュニケーションや大学での学習に対応できるようになる。様々な場面において、日本語で自分の意見を伝えたり、課題を解決したりすることができるようになる。

提出課題
 毎回、授業のテーマに即したワークシートを配布するので、指示に従ってそれを完成させる。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法
 ワークシート、宿題、小テスト等は添削して返却する。受講生の多くに間違いが見られた問題に関しては、再度解説を行う。

評価の基準
 授業中の課題達成度（20%）、小テスト等（20%）、中間の理解度確認（30%）、期末の理解度確認（30%）
 授業を5回以上欠席した受講生については、成績評価の対象から外す。

履修にあたっての注意・助言他
 毎回の授業で出席をとる。
 授業中の私語及びスマホ等の不必要な使用は慎むこと。
 日常的に予習、復習を心がけ、日本語に触れる環境を意識して作ること。

教科書
 .使用しない。

参考図書
 .なし。

その他
 プリント資料等は必要に応じて配布する。文献は適宜指示する。

授業計画

- 第1回 授業の説明（授業の進め方、スケジュール、評価の方法、注意事項）
- 第2回 対象を視覚や感覚でとらえ、それに対する印象を述べる表現を学ぶ
- 第3回 自らの行動の理由を述べる表現を学ぶ
- 第4回 一つの事柄を挙げ、その一方、または双方について評価する表現を学ぶ
- 第5回 自らの感情、感覚がどの程度であるかと述べる表現を学ぶ
- 第6回 「ない」を二度用いた、二重否定による曖昧さを含んだ意思表現を学ぶ
- 第7回 強い意思をもって自らの行動や相手への忠告を述べる表現を学ぶ
- 第8回 中間の理解度確認
- 第9回 ある行動から導かれた結果が良い場合、悪い場合のそれぞれの表現を学ぶ
- 第10回 複合動詞を用いて、その行動がどの段階まで進んでいるかを述べる表現を学ぶ
- 第11回 時間や場所の範囲を定め、ある物事がその範囲内のどこに位置するかを述べる表現を学ぶ
- 第12回 その結論に至った理由を強調する表現を学ぶ
- 第13回 ある状況を仮定して、その時に発生が予想される事柄を述べる表現を学ぶ
- 第14回 一方の状態の変化に合わせて発生する、もう一方に見られる変化を述べる表現を学ぶ
- 第15回 期末の理解度確認

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
 当週に学習した項目について、理解に時間を要した部分を中心に復習し、次週の小テストに向けて準備をすること。（120分程度）
 学習内容の定着を図るため、機能語を用いた英話練習や作成練習などを行うこと。（120分程度）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
 物事に自ら進んで取り組むことができるようになる。
 自ら目標を設定し、他に依存することなくそれを成し遂げることができるようになる。
 課題発見・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・整理し、解決できるようになる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考